

議 事 録

会 議 名	令和7年度第2回寒川町社会教育委員会議		
開 催 日 時	令和7年8月6日（水）午前10時00分～正午		
開 催 場 所	寒川町民センター 3階 講義室		
出席者名、 欠席者名及び 傍聴者数	出席者：黄木委員 新井委員 濱田委員 蛭田委員 山口委員 森委員（議長） 仲田委員（副議長） 倉本委員 三澤委員 欠席者：林委員 事務局：大川教育長 高橋教育次長 岡野生涯学習課長 山口副主幹 早川主任主事 傍聴者：1人		
議 題	協議事項(1)寒川町生涯学習推進計画「第2次寒川学びプラン」実績評価について (2)地域学校協働活動の推進について (3)関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会での役割分担及び研究発表について		
決 定 事 項			
公開又は 非公開の別	公 開	非公開の場合その 理由（一部非公開 の場合を含む）	
議事の経過	<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ 森議長 大川教育長</p> <p>3. 議事録承認委員の指名 各回名簿順に2名ずつ依頼。今回は倉本委員、三澤委員が担当。</p> <p>4. 報告事項 (1)派遣事業等の報告について なし</p> <p>5. 協議事項 (1)寒川町生涯学習推進計画「第2次寒川学びプラン」実績評価について 事務局から資料2及び資料2-2について説明。委員から提出された令和6年度実績と4年間の評価への意見について内容確認。計画期間4年間の評価は、第2次学びプランの反省点と、今後教育振興基本計画に包含されることを見据え、新たに計画する場合に取り入れてほしい視点を外部意見として文章化することを提案。</p> <p>【議長】ただいま事務局より資料2と2-2について説明がありました。それについてご質問があればお受けしたいと思います。</p> <p><意見なし></p> <p>【議長】よろしいでしょうか。事業報告と4年間の実績の評価について事務局で整理をしたいとのことですが、ご意見はありますか。ないようであれば、とりまとめた意見を最終評価として事務局に一任し、進めていただくことでよろしいでしょうか。</p> <p><承認></p>		

(2) 地域学校協働活動の推進について
事務局から資料3について説明。

【議長】ただいま事務局より説明がありました。本日は目標とテーマと体制作りの3点についてご意見いただきたいとのことです。まず目標について、これまでの会議の意見で、町の教育大綱や教育振興基本計画にも沿った形であること、「子どもたちのために」という言葉を入れてはどうかということです。目標をあまり狭い範囲で設定せずに、抽象的な表現とすることの方向性についてご意見があればお受けします。

【副議長】図書館部会で私は子どもたちのいるところを中心にして地域学校協働活動を今までのコミスクと両方の柱として子どもたちを支えましょうと提案させていただきました。子どもたちは常に中心でなければいけないというのが私の考えですので「子どもたち」を必ず入れてほしいです。

【議長】ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

【委員】私も「子どもたち」というフレーズが入ることは非常にいいと思います。昨今の少子化がここまで進行して、ようやく国も動き出したという中で、人口減少に伴って、実際に共働きの家庭も増えています。そのため、家庭での教育も時間的にも家庭だけでは厳しいところで、こういった地域の力も借りながら、社会全体で子どもたちを育み、それがまた社会の未来、今後の持続可能な姿につながっていくと思います。

【議長】ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

【委員】7年2月の全体会意見で「子どもたちが真ん中」ということが出ています。そのフレーズを入れていただきたいです。「子どもたちを真ん中に」とすると文字が変わってくるかもしれませんが。

【議長】「子どもたち」だけではなく「子どもたちを真ん中に」にしてはどうかとのことです。いかがでしょうか。

【委員】昨日、子どもの料理教室がありまして、親が今まで教えていなかったということもかわいそうなのですが、小学5、6年生になっても包丁を使ったことがないという子がいました。親が夕飯の時や休みの時に少し教えてくれればいい、それこそ手を差し伸べてあげれば何ということはないと私たちは思っていたのですが、昨日の子どもたちを見ていて実感しました。あと子どもたち同士の言葉遣いも良くなかったことも気になりました。学校の違う子どもたちが集まってきていましたが、参加した理由を聞くと「ママが申し込んだから来た」と自分から参加したくて来ているわけはありません。中には自分がやりたくて、会場にもひとりで自転車に乗ってくる子もいますが、やっぱり大人が手を差し伸べてあげないとできないことだと思いました。

【議長】ありがとうございます。自分の頃と今はかなり違うことを各所で感じます。

【事務局】家庭の教育力が低下していることについて地域で支援をしようということがこの地域学校協働活動であります。そういう意味では、子どもたちのために、保護者だけでなく地域の力も含めて「町民が共に学び」という言葉を入れています。寒川の子どもたちのために町民が一丸となってやっというを意味する目標を作りたいと考えています。これはあくまでもたたき台なので、ご意見を出し合ってください変わることを前提でこの素案を作成しております。先ほどのご意見では「子どもたちのために」ではなく「子どもたちを真ん中に」と変えてはどうかとのことです。今年2月の会議でそのような意見が出ていることは11頁に書いてありますが、今回その言葉をあえて使用しなかったのは、大磯町でその言葉を使用しているの、そのまま寒川に持ってきて使うのはどうかと思い、「子どもたちのために」というフレーズにしました。あえて、子どもたちを中心置くということを寒川町として強調したい、同じ思いがあるということであれば、同じ言葉を使ってもいいとは思いますが。

【副議長】言葉としては、「子どもたちが主役に」など、いろいろ考えられるので、「子どもたち」という言葉は入れたいです。

【委員】「町民が共に学ぶ」という部分ですが、「町民と共に」、または「地域」といった言葉が入ると、地域と学校が一緒になって行う部分が強まるので、「町民」よりも「地域」という言葉にした方がいいのではないかと思います。

【委員】「子どもたちが真ん中」というフレーズは県PTAでもよく使っており、大磯町だけではなく、広く使われているフレーズであることはご認識いただきたいです。

これは「子どもたち」と呼びかけているので、町民とするのではなく大人も一緒に学びましょう、地域の子どもと大人といった言葉にしてもいいと思います。子どもも大人も皆、町民ではありますので。

【委員】「共に学び」は大人も子どもも含まれますか。それとも地域の住民だけでしょうか。

【事務局】大人も子どもも全て含むことを考えております。

【委員】「学び」という言葉が気になるのですが、活動すべてが学びなので、わざわざ「学び」という言葉にしなくてもいいと思います。

【副議長】私もそこは気が付いていたところなのですが、子どもたちのために自立と共生をめざすのか、先ほどのご意見のように地域の大人が自立と共生をめざすのか、子どもも大人も両方にかかるのか、この言葉だとニュアンス的に弱いです。どちらがメインなのかをはっきりした方がいいと思います。「地域の大人」という言葉は気に入りましたが、誰が自立と共生をめざすのかがよくわからないというのが私の意見です。

【委員】そこは難しいところで、学校現場の方はよくわかっていると思いますが、親側が学んでないところが多々あるがゆえに、自分が言うことが正義で、まわりをよく見ていない、PTAや力がある人が上から押さえつけているといった話になることもあります。そういう方は自分の考えだけで言うので、そうすると大人が学んでほしいと思うところもあります。広い視野で協力して、例えば草むしりに親子で参加すれば、親が一生懸命やらない限り子どもは一生懸命やりません。そういうところを学んで欲しいです。草むしりはとても過酷ですが、いいことだとは思いますが、その辺のニュアンスが言葉にできたらいいのですが。なかなか教育現場では先生からもそういう意見を言いたがらないところがありまして、保護者側からちょっと提言しないと、なかなか改善されない。SNSの世の中なので、自分の言いたいことだけ言って、正論言っただけみたいな感じがあります。我々は結構歳を重ねていますが、いろいろなところで見聞きしたり、つき合いがあったりするような人は視野が広いので、そんなことはないと思います。

【副議長】今のお話を聞いていると、大人が学ばなきゃいけないといったニュアンスを受けます。そうすると、ここは「子どもたちのために、共に学び、絆を深め、地域の大人が自立と共生をめざす」というようになります。

【委員】主体が子どもではなくてくる感じになってしまうので、背景としては非常に大事なことなのですが、難しくなりますね。

【委員】それもちょっと含めて、こういうことも言えないだろうかと思えます。

【議長】言おうとしていることはわかります。他にご意見いかがでしょうか。

【事務局】案では出していませんが、町民というのは子どもから大人まで全世代を含む言葉になります。その町民が子どもから大人まで学んで、それぞれ自立と共生をめざすというところではあるので、「地域の大人」となると、主体が子どもではなくなってしまいます。最初にもありますが、目標は抽象的な表現にした方がどちらにも読み取れることもありますので、あまり狭くしない方が良く考えます。実際の取り組みではどっちも取れるという方がやりやすくなるかもしれません。

【副議長】いろいろなご意見を聞いていて、結局は「子どもたちのために、町民が共に学び、絆を深め、自立と共有をめざす」がよさそうだと思います。ただしサプライズとして地域の大人が自立と共生をめざさないといけないということが隠れていることがわかってきた気がします。そういう方向性でしょうか。

【委員】この「絆を深め」の言葉が「自立と共生をめざす」ではなくて、別のところに入った方がいいと思います。ここに「絆」を持ってくるのはこの文章の中で不自然だと思います。そこをどうしたらいいのかはちょっとわからないのですが、「学びながら絆を深め」ではどうでしょうか。ここを一つのフレーズにしないと、「自立と共生」につながらなくなります。

【事務局】「共生」がつながりを深めるという意味もありますが。

【委員】寒川町教育振興基本計画がこの10ページに書いてありますが、基本理念として「自立と共生」を掲げています。これは「自立と共生」を教育委員会は子どもたちにめざしているということですよ。

【事務局】基本理念の場合は、子どもたちだけではなくて、大人も、社会教育が含まれています。学校教育と社会教育の両方含んでいるのが教育振興基本計画の基本理念となります。

【委員】その下にある基本目標では学校教育と社会教育の2つが出ていますが、これはその文言そのままですか。

【事務局】はい、教育振興基本計画の中には学校教育と社会教育の2つの柱がありまして、それぞれの基本目標はこちらになり、全体の基本理念は「よく学び よく遊び よく生きる 自立と共生をめざして」になります。

【委員】教育大綱に書かれていることを今更言ってもしょうがないですが、教育振興基本計画の学校教育の基本目標の一番下に書かれている、「グローバル社会を生き抜く子どもたち」というところには「育てる」という言葉が隠れている。しかし、社会教育は「まちづくりに生かされている」というのは何か合わない感じがします。でもこれはもう決まっているので、今それを言ってもしょうがないのですが、どうもしくりいきません。

【事務局】学校教育の基本目標は「不易と流行」であり、不易と流行はこういうことを指すという内容の説明になっています。

【委員】それはわかるのですが、社会教育では、まちづくりをする大人たちとか、そういうふうなフレーズになってくるのではないかと思うのですが、これはもう決まっていることだから仕方ないですね。

【事務局】この計画は令和10年度までが計画期間となります。

【委員】そうすると「自立と共生」は子どもたちもめざしています。大人も自立と共生をめざしている訳でしょう。そのフレーズだけ考えようとするちょっと無理なのだと思います。この表題だけ見ると、子どもたちのために大人がこういうふうにするというように取られます。

【事務局】町民という言葉には子どもも大人も含まれます。

【副議長】それはちょっと無理があります。主語が「子どもたち」と入っているので、そこが全てにかかってしまいます。そこを考えると、この文章はどこかを削らないと、一番の主役が誰かということがよくわからない。

【委員】そう思います。表題が「地域学校協働活動の充実への取組」ですが、地域学校協働活動の充実のために何をやるかということです。そうすると、子どもたちのために大人、諸団体は、共に学び、自立と共生をめざすととらえていけばいいと思います。それなので、子どもたちが主役であることはもちろんその通りなのですが、学校教育、学校運営協議会もそうだし、地域学校協働本部も子どもたちのためにやっているわけなので、そのようにとらえていけばいいと感じます。

【事務局】地域と学校が共有する目標になるので、同じビジョンをめざすこととなります。

【委員】「子どもたちのために自立と共生をめざす」を「絆を深め」の後に、「子どもたちのために」を入れるといいのではないかと思います。それと「町民」ではなくて「地域」にして、「地域が共に学び、絆を深め、子どもたちのために自立と共生をめざす」はどうですか。大人が自立と共生になってしまいますが、子どもたちのために大人がめざすので、それでいいと思います。子どもも学ぶのですが、大人がまず学ぶことが大事なかと先ほどのPTAの例も聞いて思いました。

【委員】いろいろご意見が出て、私が思ったことですが、今は地域学校協働活動の目標を作ろうとしているところで、この案は主語が町民になっています。「子どもたちのために」という目的は示されていますが、どうしても主語が町民になり、町民には子どもも入っていますが、子ども主体というところ、先ほど「子どもが真ん中」というご意見も出ていましたが、その部分が薄まってしまうのではないかと感じました。他の例を見てみると地域学校協働活動の目標はやっぱり学校と地域が連携・協働して、地域全体で子どもたちの成長を支えるということが主なので、子ども中心にというニュアンスを何とか出したい。これだとしても子どもも含まれている全体の自立と共生になってしまうので、そちらが目的になってしまっているような違和感があるということが私個人の感覚です。

【副議長】最初の図書館部会で私が提案した中に、子どもが主役というところで「子

どもたちのために、社会と学校が目標を共有し、相互にパートナーとして連携・協働する」と書きました。ただし、これをここに入れるためにはもっと縮めなければいけないと思いましたが、今のご意見はこういう感じではないかと思いました。

【委員】せっかく作っていただきましたが、難しいので他の自治体の例が知りたいですね。目標作っている自治体は少ないですか。

【事務局】県内の自治体の地域学校協働活動の目標はどのような言葉なのかは把握していないもので、それを次回の会議までに調べて出させていただきます。

【委員】すみませんが、よろしくお願いします。

【教育次長】私個人としては、先ほど意見がありましたように、子どもたちのために社会教育の分野ではメインは大人たち、地域の人が頑張っています。学校教育の中では子どもたちを育てる目標としては、先ほどもご意見ありましたが、子どもたちが常に受け身で包丁も握ったことがないままにしないで、やっぱり子どもたちも当然大人になっていきますので、大人として自立して、より良い人生を送っていくため学校教育では教育を行っています。そういう意味では、学校教育でも自立といろいろな方と共生していける力の両方を身につけるためにやっていますが、保護者側でそういう理解がなければ、子どもの教育はすべて学校に任せてしまうという偏りが教員の多忙化にもつながっています。子どもたちのために学校教育も社会教育も共に大人たちを中心にやるべきことはやって、きちんと共通の目標を持ってやっという、それが10ページ一番下の教育振興基本計画の社会教育の基本目標になります。大人も子どもも含めてひとつづくりをしていこう、ひとつづくりが進めばつながりも出て来て、まず初めに人が集まってくれば、そういう人たちの地域が育っていき、各地域が育っていけば、その他全体のまちづくりに繋がっていくという意味が、この社会教育の「ひとつづくり、つながりづくり、まちづくり」の中にあります。そういう中ではどちらかという主語は地域の大人たちが自立と共生をする、学んで絆を深める、ということが私個人の感覚的にはそうなのかなと思っています。

【委員】「子どもたちのために」をつけなくて、子どもたちの自立と共生をめざす社会がいいなという言葉にしたらいかがですか。

【教育次長】そういう子どもが大人になれば、大人も自立と共生になるということになりますが、今の社会の大半の大人は忙しい、子どもの教育は全て学校に任せるといようなデメリットについて考えれば違う主語になると思います。皆さんが一番ひっかかっているのは主語でしょうか。自立と共生は誰がということでしょうか。一番違和感があるのはどこでしょうか。

【委員】子どもを自立と共生させるために、大人が学ぶということではないでしょうか。子どもたちが自立と共生をめざすために、支えるとかそういう言葉だとしっくりくると思います。

【委員】今のご意見は私も本日感じていたことなのですが、子どもたちの自立と共生というのかそれとも成長と学びというように言うのか、その言葉を目標として持っていきたいという気持ちがあります。「子どもたちのために」というところが逆にぼやけてしまっていて、こっちに例えば子どもたちの自立と共生なのか、成長と学びなのか、そっちのためにとか、それに向けてとかそこで明確にしといて、あと町民全体でこういうことをしていくという目標の作り方なのか。子どもたちというところがぼやけてしまうので、今のご意見のように同じ思いをされているのだと感じました。

【副議長】皆さんの意見を言いますと、「子どもたちの自立と共生、あるいは成長と学びのために、町民が共に学び、絆を深め」ということが今のお話を聞いて感じたところですね。

【委員】私も考えているのですが、「子どもたちのため」ではなくて、「子どものため」の方が子どもは気負いすぎないのではないかと思います。子どものために地域住民が明るい町をめざすというように自然になってきませんか。子どもたちのために絆を深めることはもう前からあります。自立と共生をめざすということは昔そんなことは考えなかったのが今は難しいですね。

【事務局】子どもとするか、子どもたちとするか、どちらがよろしいでしょうか。子どもたちという全体で、子どもとすると一人一人と感ずるかもしれません。「子どもが真ん中」は一般的なフレーズなのでこの言葉を使ってはどうかと先ほどもご意見あ

りましたが、前回配付した資料で、神奈川県が作成した地域学校ボランティアハンドブックで、後ろの方に県内自治体の事例が掲載されています。葉山町も「子どもが真ん中の学びを支える」、二宮町は「子どもが真ん中」とありまして、大磯町だけではないフレーズであると、寒川町が使っても他の真似だということではなく、一般的な言葉で違和感はないといえます。

【委員】「こどもまんなか」は子ども家庭庁が使っているもので、それが県や市町村に下りていると思います。

【副議長】「こどもまんなか」の次は他はどんな言葉を入れてありますか。

【事務局】葉山町の事例紹介の表題は「子どもが真ん中の学びを支える」とありますが、これが葉山町の目標かどうかはわかりません。

【議長】他にいかがでしょうか。「こどもまんなか」という言葉は一般的に使われているので、寒川町で使っても大丈夫とのことでしたが、どうでしょうか。

【副議長】その言葉にこだわる必要もないかと思います。原点に戻って、寒川町教育大綱で言われている言葉をうまくここに具現化するということが私は理にかなっていると思います。ただその使い方だけで、この言葉を一行に落とし込むことは結構大変ですが、それこそ寒川らしさだと思います。皆さんどうでしょうか。我々は寒川町のことを考えていますので各市町は関係ありません。

【委員】11ページの図書館部会の意見の最後のところに、子どもたちは町の宝であるということが書いてあります。子どもたちが主体でその中で学校や地域が子どもたちを支えて、寒川で成長していくことを助けるということが入れればいいので、難しく、自立と共生といった言葉にしなくてもいいと思います。寒川町教育大綱の言葉がうまく入れれば寒川らしさは出てきますし、もっと簡単にした方が、単純にわかってもらえんと思います。

【教育次長】子どもたちを育てていくという自立と共生といった観点は私も大切だと思っています。それは、子どものためにというだけで、ややもすると講座でも授業でもなんでも揃えてあげて、教えてあげてというようになると結局子どもたちは自立しないという結果に陥ります。あえて不便にしてあげるとか、あえて大変だけど機会を設けてがんばるようにしないと、根っこの部分では結局子どもは自立できません。他人ともうまく関われないまま閉じこもってしまうように育ててしまうことは我々のめざすところではありません。そのために大人が、保護者も含めて良く学んで、子どもたちのために協力すべきことはしてというよいお手本になっていくということが社会教育の今後めざすところではないかという思いがあります。子どもたちが自立と共生を目指して育ててほしいので、学校と地域が協力していけば、町民が共に学び、絆を深め、子どもの自立と共生をめざすようになります。ここは言葉を入れ替えるだけでもいいと思います。私自身も皆さんのご意見を聞いて思ったところです。

【副議長】今のご意見はまさに非認知能力を「自立と共生」という言葉で表しています。これは家庭でできるかではなくて、子どもにどういうきっかけを与えるかということが一番大事で、それを我々の町民側が、やってあげられるということがこの地域学校協働活動の趣旨だと思います。それなので、「自立と共生」というのは非認知能力ということを考えてと外せないという気はいたします。

【委員】そうすると、「子どもたちの自立と共生をめざす」は子どもたちを主語にするのですよね。最初の「子どもたちのために」とするとぼやけるので、「子どもたちの自立と共生をめざす」にすると、子どもたちのために地域が学んで目指すのですよね。そのようになるから、子どもたちを最初にもっていかないで、自立と共生の前に「子どもたちの自立と共生」、共生でも成長でもいいのですが、それをめざすとする、きちっと収まるような感じがします。

【議長】先ほどの副議長がおっしゃった言葉とは違いますか。

【副議長】違います。私は、「子どもたちの自立と共生、または成長と学びのために町民がともに学び、絆を深める」と言いました。

【委員】ここを反対にただけですよね。私が考えた言葉は「地域が共に学び、絆を深め」、という言葉がちょっと嫌なのですが、「子どもたちの自立と共生をめざす」です。言葉を入れ替えただけです。先ほど事務局は自立と共生は、親も子も大人も子どももおっしゃいましたが、町民が共に学び、絆を深めるところはもう自立と共生です。

それなので子どもたちの自立と共生をめざすにしました。それならばピタッと来ると思いました。私は町民という言葉も気になります。

【議長】すみませんが、それを一文で言うだけでいいとわかりやすいのですが。

【委員】言葉が気になるのですが、「地域が共に学び、絆を深め、子どもたちの自立と共生をめざす」。地域が主体になります。副議長がおっしゃるのは、子どもたちを前に持ってくるから順序が違うだけですね。

【教育次長】言っていることは同じだと思いますが、順番が違いますね。

【事務局】町民にするか、地域にするかという言葉の違いがありますが。

【委員】地域がしなければいけないのだから、地域がいいと私は思います。地域が学んで絆を深めて、子どもたちのために自立と共生をめざすとか支えるとかにした方がいいのではないですか。

【教育次長】個を主体にするならば町民で、個人が学んで絆を深めて、それがグループとなって地域になることを考えれば原文で良いと思います。そうではないという観点であれば、地域が共に学びとなりますが、どう考えるかだと思います。

【委員】地域の中には子どもも入っていくのですが、これが地域学校協働活動の目標、地域と学校が協働していくための目標になりますが、(1)でもあるように地域と学校が共有するということになりますので、学校ということが抜け落ちてしまっていることが気になっています。6月の第1回図書館部会の1つ目のご意見にもありましたが地域社会と学校が連携協働するっていうのは、地域だけが何かをやっているような感じになってしまいます。そこに言葉が入って来ないと、学校が置き去りになってしまいます。地域だけが盛り上がっているのかな、地域学校協働活動という趣旨からいうとちょっと大丈夫かなという。この文言を作っていただきましたが、すごく大事なところだと思います。

【副議長】11ページの一番下の先ほどご意見いただいた部分にやはり返ってきてしまうのですが、「子どもたちは町の宝であり、主役の子どもたちを地域と学校は対等な立場で支える」というような方向にすると、これと全く意味は違いますが、言っていることはわかると思います。すごく大きいですね。

【教育次長】学校と社会教育は両輪です。学校運営協議会、コミュニティ・スクールと、社会教育は地域学校協働本部、地域学校協働活動を両者が協力し合って子どもが真ん中で育てていこうということが全体像です。その片翼といいますか、両輪の片側のセクションである社会教育としての地域学校協働活動の目標として、一般的にわかりやすい表現は何なのかということになると思います。学校と協力しながら子どもを育てていくことは間違いないのですが、そこに学校という言葉を入れた方がいいのかを今検討しています。

【副議長】町民も学校も入れないっていう選択肢もあります。今思いついたのは「子どもたちは町の宝であり、子どもたちのために自立と共生をめざす」。

【事務局】いろいろなご意見をいただいた中で、私なりにまとめてみましたが、「町民が共に学び、地域と学校が絆を深め、子どもたちの自立と共生をめざす」ちょっと長いですがいかがでしょうか。

【副議長】長いです。

【委員】これは今日決めなければいけませんか。

【事務局】方向性、目標を定めてテーマを作っていくことを考えていますので。

【委員】今、いろいろな意見が出ましたが、そんなに変わらないですね。フレーズとして何が適切かと言えば、それは1つ決めなければいけないけれど、言葉は消えていってしまうから、やっぱり書いて、その中でここをこう変えるとやっつけば落としどころが見つかると思います。一応たたき台が出ていますので、今日の意見もちょっと羅列的にやって、それを次回やっつけようでしょうか。このままだと堂々めぐりしてしまうと思います。

【事務局】今日は皆様からご意見いただきましたので、次回の会議が部会になるものでそれぞれの部会でご意見いただいたところを最終的には合わせることでよろしいでしょうか。

【委員】もともと今年度中とは言っていないですね。

【事務局】できれば提言書は今年度中にまとめたいと考えています。この提言書ができ

ないと、この地域学校協働活動の本部を作ったり、推進員を配置したりということが、遅れていきます。

【委員】 そうなると来年度に本部を設置したいということですか。

【事務局】 いえ、それはさらに次年度になりますので令和9年度を考えています。

【議長】 それでは今のご意見をまとめていただいて、次は全体会議ではないので、ちょっと難しいですが、それぞれの部会でこれがいいのではないかとこののを合わせていくことでよろしいでしょうか。

【事務局】 次回はホワイトボードかパソコンとプロジェクターを用意いたします。その方が皆さんからいただいた意見を組み合わせたり、入れ替えたりできますので。今日はいろいろなご意見が出ましたので、材料はたくさんできたと思います。あわせて参考に他市町村の目標も次回の会議ではご用意いたします。

【議長】 それでは目標については次回ということでもよろしいでしょうか。事務局は資料のご用意をお願いいたします。次は12ページの活動テーマになります。

【事務局】 目標がまだできていないので、活動テーマも定まらないとは思っていますが、目標を大きくとらえて、狭くしなければ考えられると思いますが、ここにも赤文字で、「寒川町の子どもたちの自立と共生を醸成し」という言葉が入っていますが、目標を作って、その目標を達成するための活動テーマを作りますので、寒川らしいテーマといえば今までこのような案が出ています。目標が今は具体的に決まってはいませんが、地域と学校が協働して子どもたちのためにできることとして例として今までご意見いただいた内容を入れていきます。

【議長】 わかりました。目標がまだ決まっていないので、活動テーマを考えることは難しいところですが、今までの意見でこのような活動が出てきていますが、これ以外にこういったものも入れたほうがいいのかというご意見はありますか。

【委員】 よろしいですか。家庭教育が入っていないです。先日、非認知能力に関する講演会がありましたが、それが読書活動推進に入るのか、非認知能力の醸成に入るのか、どちらに入るかわかりませんが、朝の本の読み聞かせも大事ですが、親子で子どもに夜寝る前でもいつでもいいのですが、親が子どもに向けて読むことは全部違うようです。朝全体のクラスの子に大人が1人で読むことと、お母さんが子に本当にふれあいながら読むことは。その講演会の講師の方は非認知能力の醸成のところでもふれあいながらの読書が大事ということを書いていました。それが家庭教育に入るのか、非認知能力醸成のところに入れるのか、読み聞かせだけでも家庭の方に手を入れることができればいいのかと思います。家庭教育を入れていただきたいと思います。

【議長】 はい、ありがとうございます。

【委員】 この項目を見ていくと、例えば、4つめの多文化共生・グローバル教育となるとすごく大きいテーマですよね。だけど食育活動・調理実習となるとまた個別の何かテーマと材料が平行してしまっている。この項目立てだとうまくいかないのではないかと思います。グローバル教育なんて大きいことを言うのなら平和教育とか人権教育とかそういう言葉も出てきてしまうので、そういう大テーマでいくのか、個別に一つ一つ拾っていくのか、これはどうなるかわかりません。

【事務局】 平和や人権は多文化共生に含みますが、ここに書いている案は今までの協議で出てきた意見を取り上げたものになります。

【委員】 羅列しただけではうまく落とせない気がします。

【副議長】 今おっしゃったのは、総論と各論になります。前に事務局に私から4つの分類ということでお話をしていますが、もしこれからお話を皆さんでやるのであれば、その話をするのも1つの方法かもしれません。

【委員】 せっかく仲田さんが作っていただいて、図書館部会ではもらっていますが、公民館部会の方はもらっていないようですが、非常によくまとまっている資料です。それをぜひ公民館部会の方にも配っていただけたら話は通りやすいと思います。

【委員】 テーマと取り組み内容のような言い方になっていますが、混在しています。例えば郷土学習というと、取り組み内容になります。だから「郷土に関すること」とすればこれはテーマになります。それなので言い方の部分が問題なのだと思います。読書活動の推進というところは、テーマとしてうまく言わないと、今の子どもたちの読解力は下がってきているので、家庭で読み聞かせも少なくなっているところ

に、学校でもボランティアにやっただいていますが、そういうところはすごく良いことなので、やはり言い方だと思います。例えば、自然環境を知る学習となっていますが、自然環境のことはすごく大事なことです、学習とついでしてしまうとやっばりできなくなってしまうので、言葉の文言整理された方がいいと思います。食育活動・調理実習もあくまで調理実習は食育の一環で行われる取り組み内容なので「食育」とすればいいと思います。

【事務局】 テーマと取組内容が混在しているというご指摘をいただきました。この部分はテーマをあげることにして、先ほど冒頭の私の説明では取り組むテーマが決まったら取組内容について詳細な説明を書かせていただくとお話ししましたが、現状では個別の取組がここに混在しているので、テーマごとにまとめて、テーマに対して取り組む個別の事業を書くという形に変更させていただきます。

【委員】 テーマを決める時にでも、その取り組み内容はある程度ゴールをめざして作っておかないと、実際にテーマは掲げても何をやったかということになってしまうので、大体頭の中にあると思うのですが、多文化共生・グローバル化はどうしようかと思ひます。

【事務局】 具体的な事業に取り組むことは難しいですか。

【委員】 おそらく外国に繋がりのある方がとても増えてきているので、そのような関係で必要になってくるかと思ひます。実際に今年度から小谷小学校で国際教室という子どもに日本語を教えたりする教室ができました。それが他の学校でも同じように必要になってくるかもしれないし、そういう子たちに対してどうやっていくのかということが求められてくるかもしれません。その子たちに単純に日本語を教えるということではなくて、その子たちの良さ、その国の文化もどんな文化なのだろうかということ共有できたらいいと思ひます。それは子どもだけではなかなか難しいから、地域にいる同じ国の方に紹介してもらいお互い学ぶことも大事かもしれません。

【委員】 先ほど私が言いました家庭教育について、これは学校との協働活動になるので、すみませんが取り消してください。ここに読書推進活動や非認知能力の醸成が入っていたので、ちょっと意見を言いましたが、家庭教育は別になりますね。地域学校協働活動ではないと思ひました。

【委員】 家庭への支援という観点ではあり得ると思ひます。

【事務局】 読書活動の中で、読み聞かせをしましょうということは言えますし、家庭教育支援というところで、当てはまると思ひますが、そうするとすごく大きなとらえ方にはなりません。もう少し具体的に絞って各テーマを定めた方がいいのではないかと思ひます。これを行うことで、ひいては家庭教育支援につながる、という形になれば。

【委員】 テーマはここで決めるものなのかという気がします。

【事務局】 本来は目標が定まってからテーマを決めるようにはなりません。

【委員】 いや、もう大体の目標は自立と共生と決まっています、大人も子どももということですね。もう目標は決まっているのだから、テーマの項目立てていくと、それを縛ってしまうのではないか。これから各学校や地域学校協働本部でいろいろ何か議論をされるでしょうが、そのテーマを決めてしまうということはどうなのか。

【事務局】 これはあくまでも社会教育委員からの提案になりますので、ここに載せた7つのことを各学校で全部やっもらう強制的なものではありません。

【委員】 案としてこういうものはどうですかということですね。

【事務局】 はい、社会教育委員としてはこういうことを推し進めて欲しいという提案となります。

【委員】 先ほど家庭教育のことをお話しされていましたが、そこに目を配るという視点はすごく大事だと思います。なかなか家庭教育に刺さっていく手段がないのが現状で、でもそこが弱っているから、地域や学校でも補完しようとしていることもあり、家庭の部分も何とかしたいという思ひは私も同じです。何か可能性として地域学校協働活動としてできることがあるのかちょっとわかりませんが、あえてテーマには入れなくても、そういう思ひも持ち続けておく、どこか頭に入れておくことは、とてもいいことで、斬新なアイデアだと思います。各テーマとしてはっきりとは示さないけれど、何かこうそういう議論もあった、考えることもあることは意見としてよかったですと思ひます。

【委員】 私が小学校でやっている読み聞かせについてお話しします。

クラスには、お家で読み聞かせされて育った子もそうでない子もいると思いますが、朝の読み聞かせは、そのどちらも一緒に同じ本を体感することに意味があると思っています。ふだんは読書にあまり興味がない子ども自身が家庭で話題にしてくれたら、それが何よりの成果です。

【委員】 今、読み聞かせのお話がありましたが、なかなか昨今読み聞かせの機会が作れなくて、うちの学校はPTAの方がすごく熱心で、コロナで学校の読み聞かせ活動が途切れてしまっていたのですが、今年の1学期から再開しました。それも本当にボランティアの方が集まって、学校も時間を工面しています。やっぱり読み聞かせや読解の部分で問題が出てきていますので、そういう意味ではここにテーマとしてあげることは、家庭と学校のどちらということではなく大事なことだと思います。学校でもやっていたら、そういう子たちが大人になった時に今度は自分の子に読み聞かせをやってくれたらいいと思うので、どちらが先ということではないと思います。しかし、実際にはなかなかできていないので、テーマとしてこれを入れることは大事だと思います。

【委員】 まず受け入れ側の学校が外部ボランティアを早く受け入れてほしいです。そして保護者とボランティアが協力して学校や寒川町内の読み聞かせ活動を盛り立てていくのが望ましいと思います。保護者の方が自分の子のクラスなり、自分の知っている子のクラスで読むというのは、もちろん良いのですが、それだけでは回っていきません。もし学校全体でやるのだとすれば、足りないクラスがどうしても出てきます。その時にやっぱり外部の人を使って、全部のクラスでやっているという形にして欲しいです。低学年のクラスは保護者も自分の子の様子が見たいので、読み手のボランティアが多く集まるクラスはありますが、高学年になってくると、子どもからお母さんもう学校に来ないでと言われたり、もう自分で読むからいいみたいな反応されたりすることもあります。うちは学校全体で読み聞かせをやっているという形にするのであれば、足りないところには外部のボランティアを受け入れることも考えてほしいです。学校の中だけで頑張ろうと思わないで欲しいです。

【委員】 現実的には時間を作ることが大変で、朝自習も授業時間数のカウントに入るので、その合間を縫って、うちの学校ではやっています。実は今日も来る前に教頭先生とちょうど読み聞かせのボランティアの話をしていて、1学期の最後に2学期からの読み聞かせボランティアをまた募集するチラシを配布し、2次元コードから申し込みできるようにしたのですが、申込期限が7月中だったので、何人来ているかチェックをしたところ、うちは児童数500人規模の学校ですが申込は12人でした。先日、PTA役員ともその話題になり、やっぱり少ないので、もう1回呼びかけないと難しいのかなというのが現実です。中にはやりたいけれど、仕事があってその時間はできないという方もいるので、そういう書き込みもいただいております。学校側で時間をつくることも大変なのですが、ボランティアを確保するけれども、今後の課題だと思っています。

【議長】 ありがとうございます。貴重なご意見いろいろいただきましたが、本日は時間の都合がありますので、テーマについてはまた次回ご意見いただくこととして、本日の協議はここまでといたします。

(3) 関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会での役割分担及び研究発表について

- ・事務局から関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会開催要項について説明。
- ・資料4の第3分科会の寒川町の事例発表の原稿素案について内容の方向性及び構成の確認。
- ・発表者については、生涯学習課職員と社会教育委員で発表を行うため社会教育委員から代表選出。

【議長】 発表原稿案の資料については、本日配付で皆さんまだ読まれていないので内容への意見は難しいとは思いますが、次回の部会でも構いませんか。

【事務局】 9月1日に県社教連研修会でリハーサルがありますので、概ね内容の方向性を確認いただけないでしょうか。

【議長】 今日ここで全部読むには時間がないので、事務局の素案の方向でよろし

	<p>いでしょうか。</p> <p>【委員】 せっかくの発表なので特長的なところというと、公民館などで素晴らしい取り組みをいろいろされていて、今回の発表の副題は家庭教育支援の取り組みとありますが、寒川町の学校教育でも外国語教育、グローバル教育に力を入れていて、公民館でも、東京都英語村に子どもたちを無料で連れていったり、FLTと講座をやったり、英語での調理実習をしています。この辺りを家庭教育の支援という側面で言うと、学校教育での外国語の学習時間だけでは、実際には身につかない、そのための学習時間は学校外の時間がさらに必要です。そこを家庭教育に任せっきりせず、公民館としてもその部分もサポートしているという立て付けで紹介されると他でもこれだけ充実した外国語教育、英語村までの参加料を町が負担して無料なところもないと思います。町独自でも講座をやっていますので、町の売りとして、せっかくなので特長的な公民館事業としてもいいと思いました。</p> <p>【事務局】 ありがとうございます。公民館事業については、どの事業を紹介するか差し替えは可能です。公民館事業の55%が子ども対象事業なので、その中からどれを選ぶかは取捨選択ができますので、とりあえず町民センターの星空観察会の例を出しましたがこれをグローバル教育にすることも可能です。寒川町らしいもの、特長的なものとするために原稿内容を修正したいと思います。</p> <p>【委員】 当日のプレゼンターですが、私もこのようなプレゼンはよくやっていたので得意ですが、分科会の日には校長会があるためいけないので、慣れた方がやると思います。</p> <p>【副議長】 プレゼンは森議長がやると思います。第3分科会で発表は議長にお任せするにしても、9月1日の模擬発表は発表者2人で出られることでよろしいですか。</p> <p>【事務局】 はい、その予定です。</p> <p>【副議長】 もう一点、11月の本番の時の第3分科会の接待係は今日決めなくても大丈夫ですか。</p> <p>【事務局】 今日、決まるとありがたいのですが、最終的には寒川から誰か1人を接待係とすれば構いません。</p> <p>6. その他 (2) 令和7年度会議日程案について 次回会議 公民館部会：10月30日（木）午前10時～ 図書館部会：10月30日（木）午後1時30分～</p> <p>県社教連研修会 9月1日（月）総合教育センター（議長・副議長） 関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会 11月20日（木）・21日（金） 県公民館大会 1月23日（金）足柄上合同庁舎（予定）</p> <p>7. 閉会 仲田副議長</p>
配付資料	資料1 令和7年度社会教育委員名簿 資料2 第2次寒川学びプラン 令和6年度事業報告及び実施計画期間(令和3～6年度)の事業実施状況の評価報告書(案) 資料2-2 「第2次寒川学びプラン」社会教育委員意見①② 資料3 令和6・7年度協議テーマ「地域学校協働活動の推進について」 資料4 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会第3分科会発表原稿案(初稿) 資料5 令和7年度寒川町社会教育委員会議日程(R7.8.6時点) 参考資料1 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進 参考資料2 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会開催要項
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	・倉本佳子 ・三澤米子 (令和7年11月14日確定)